

○文章添削の視点

・段落構成 ～まずは双括型で～

文章の核である論理を、はじめに述べるのが頭括型、おわりに述べるのが尾括型、どちらも述べるのが双括型です。どちらも述べろ、というわけではないけれども、意見の核を踏まえてはじめの段落を書き、おわりの段落でそれを確認するくらいの丁寧さが大切です。はじめの段落と後の展開とが結びつきにくいものがいくつかありました。主張と根拠やデータのつながり（第一段落と第三段落とのつながり）、反論の先取りが後でつぶせているか、などの確認のためにも、双括型で考えましょう。

・一文が長いものがないか ～一文一義の原則～

見ていると、一文の中にたくさんの情報を詰め込みすぎているものがありました。一文が長いと、何が言いたいのかわかりづらかったり、主述の関係が乱れたりしてしまいます。一文は一つのことを言うために作る。これが一文一義の原則です。また、句読点を効果的に使うことでも、読みやすくなります。

・対比があるか

何かについて考えるときに、対立するものを挙げて比べてやることは効果的です。対比は、書く上でも有効な手段ですし、この手法で書かれた評論文は多くありますから、読むときにも役に立ちます。

・表記 誤字・脱字や、「～だろう」「～と思う」は要注意

自分の意見に自信がない、大胆に言い切るのは気が引ける、といった場合に多く見られる表現に「～だろう」「～と思う」があります。はじめの方や反論の先取りで使うくらいなら良いのですが、自分の意見を言うときにはこれらの表現は避けましょう。使うな、というわけではありません。使うことですしあいまいな、ぼかした印象が出ることを注意しておきましょう。

文章は書き終えたら終わり、ではありません。読まれてこそそのものです。これからもお互いに読み合う機会を作るので、そのつもりで書いていきましょう。そのためにも、読む人の意識も重要です。読んだ文章の良いところだけでなく、自分の文章の良いところもしっかり見出してください。こうしたことを経て、より良い表現について考え続けていきましょう。

○頻出テーマやその考え方について

次には、近年の小論文の頻出テーマなど出題の傾向についての話をしていきましょう。キーワードは2つ。「現代社会」と「コミュニケーション」です。

○構想

()組 ()番 名前 ()